

キャラクター名  プレイヤー名

シンドローム	ノイマン		ワークス	占い師	カヴァー	占い師
	パロール					
オプション			年齢	23	性別	女
覚醒	死	衝動	解放	初期侵食率	36	%
出自	結社の一員	経験	空白期間	邂逅	保護者	

	基本値	ワークス	ボーナス	成長	他修正	能力値	HP	28
肉体	0	0	1			1	行動値	8
感覚	1	0	0			1	(非装備時)	8
精神	5	1	0			6	戦闘移動	13
社会	2	0	0			2	全力移動	26

肉体			感覚			精神			社会		
技能	SL	修正	技能	SL	修正	技能	SL	修正	技能	SL	修正
白兵			射撃			RC			交渉		1
回避			知覚	1		意志	1		調達		
運転:			芸術: 占い	2		知識:			情報: 噂話	+1	2
運転:			芸術:			知識:			情報:		
運転:			芸術:			知識:			情報:		
運転:			芸術:			知識:			情報:		
運転:			芸術:			知識:			情報:		

武器・コンボ	能力	命中値	G値	攻撃力	射程	メモ
エピタキンシ-加速-		0		-		2+3 行動値付与
ハロス-死神-	RC	6r				5+6+1 選択(範囲)に変更でバフ付与
マゴス-魔人-						5+6+7+1 同上
タクティキ-戦術-						4 Xジャーのゲイス+Lv個

防具	価格	装甲	回避	行動	メモ

所持品		合計装甲:	0	合計回避:	0
ロイス					
対象	感情(pos)	感情(neg)	タイマス	消費	
結社員(父: 聖 友樹)	P 家族愛	N 嫌悪			
母親 (聖 風香)	P 家族愛	N 嫌悪			
霧谷雄吾	P 信頼	N 嫌気			
アサシンズセル	P 執着	N 敵愾心			
ALICE(アリス)	P 庇護	N 隔意			
支部長	P 尊敬	N 不安			
フライワイヤ	P 純愛	N 偏愛			
最大財産P:	4	残り財産P:			

スキル名	SL	コスト	タイミング	射程	対象	判定	制限	メモ
ワーディング	★	-	オート	視界	シーン	自動	-	
効果:	非オーヴァードのエキストラ化							
リザレクト	0	1d10	気絶時	-	自身	自動	↓100	
効果:	コスト分のHPで復活							
コンセントレート: パロール	2	2	Xジャー	-	-	シンドローム	-	
効果:	クリティカル値-lv (下限値7)							
赤方偏移世界	3	2	セツ	視界	単体	-	-	
効果:	行動値+[Lv*2]							
戦局判断	2	4	セツ	視界	単体	-	-	
効果:	行動値+[Lv*2] 自身不可							
戦術	2	6	セツ	視界	選択	-	-	
効果:	Xジャーのゲイス+Lv個 自身不可							
死神の瞳	2	3	Xジャー	視界	単体	対決	-	
効果:	<RC> 対象次ダメージ[Lv+1]D HP与無							
因果歪曲	2	3	Xジャー	-	範囲(選択)	シンドローム	-	
効果:	1シカリLv回 範囲(選択)に変更。同じエンゲージ不可。							
魔人の心臓	2	4	Xジャー	-	対決	シンドローム	100%	
効果:	対象判定ゲイス-[Lv*3]個 マイナーアクション使用で解除							
天性のひらめき	3	4	Xジャー	-	-	効果参照	-	
効果:	戦闘不 C値: -[Lv] 能力・技能判定可							
グラビティーガード	1	3	オート	至近	自身	-	-	
効果:	ガード値+(Lv)D							
帝王の時間	1	-	Xジャー	至近	自身	-	-	
効果:	時よ止まれ							
ディメンジョンゲート	1	3	Xジャー	至近	効果参照	-	-	
効果:	どこでもドア							
効果:								
効果:								
効果:								

聖 美風友 (ひじり みふゆ)

16歳の時に事故にあい一度は死んだはずだったが、覚醒してよみがえった。その時にUGNに入ることを両親に進められたが何かに縛られる事が嫌いだった事と、いつも忙しそうなお父さんにかまってもらえず今までUGNに奪われていた嫌悪感から断った。今もおUGNに関して少し嫌悪感はあるけれど、それはあくまで組織に対してのみ両親は大事だし、霧谷さんに関しては本当の兄のように思っている。

17歳の時に誰にも何も告げず旅に出た、世界を見てみたくて。いろんなことを知るために。19歳で戻ってきたからはイリーガルとしてUGNの依頼を受けたりしている。パロールの力を使って突然現れたり、気づいたらいなくなったりするために『momentum』-一瞬-というコードネームが付けられた。

「何かに縛られることが大嫌い！自由が大好き、きのみきのまま！それが一番！」